

## ネックエアバッグ・システム内蔵レーシングスーツ

近年、バイク用エアバッグ・システムの注目度が高まっています。その理由のひとつが「MotoGP」での着用が義務付けられるという報道です。またエアバッグシステムを装着していれば走行料金やエントリーの割引を受けられるサーキットも増えてきました。エアバッグシステムはライダーを守る装備として確実に浸透してきているのです。しかし普及をさまたげる要因もあります。そのひとつが価格です。通常の革ツナギに複雑なエアバッグシステムを内蔵するのですから、それなりに高価になってしまいます。また比較的安価なベストタイプの場合は、革ツナギの上から着用するため「スタイリッシュさに欠ける」という声も。そのような理由から導入に踏み切れない人も多いように感じます。

「有効な安全装備をできるだけ低コストでユーザーに提供したい」と考えているプライドワンは、従来から他社よりもリーズナブルな価格でフルオーダーのツクエアバッグ・システム内蔵レーシングスーツを販売していました。ここでさらに手頃な価格でユーザーの手元に届けるべく、既製サイズのネックエアバッグシステム内蔵レーシングスーツ「PRR-175」を開発。業界初となるいわゆる「吊し」のネックエアバッグ内蔵レーシングスーツのリリースです。

## Hit Air製ネックエアバッグ・システムの特徴

### シンプルな作動原理を採用

バイクとライダーが離れる事によってユニット内のピン(Kyeボール)が抜けポンペが作動。0.27秒でエアバッグが作動します。また作動後、エアバッグ本体に破れなどの大きなダメージがなければ折りたたんで収納し、新しいガスポンペをセットすることで再利用が可能です。

### 首周りへの衝撃を緩和しダメージを軽減

頭部が障害物にぶつかった場合、ヘルメットが衝撃を分散し中へ伝わる力を緩和しますが、衝撃は首にも伝わるので場合によっては深刻なダメージを与えることもあります。首元のエアバッグはヘルメットごと頭部を支え、首が大きく動くことを抑制。首の重要な器官や鎖骨を最大限守ります。

### 頭部・ヘルメットへのダメージを抑える

首周りのエアバッグが緩衝材となり、頭部が直接路面に叩きつけられることを抑制。脳しんとうなどを起こしにくくなるので、転倒場所からすぐに移動し二次被害を回避したり、以降のレースに出場することも可能です。また高価なヘルメットが傷つくことを防ぐ効果もあります。



◆全日本選手権J-GP2クラスでの衝撃映像。ハイスピードで放り出されたライダーのネックエアバッグは空中で作動し、首周りを保護。高速で頭部から落下したにも関わらず、自力でコース外に避難することができました。



Photo by Shigeto Kawakami

## プライドワンの歴史

- ◇1987 「FTS」としてOEM生産をメインにレーシングスーツ供給を開始。
- ◇1988 プライベートブランド「プライドワン」立ち上げ、OEMにて全日本ライダーレーシングスーツ供給を始める。
- ◇1990 スポーツメーカー「ミズノ」からの依頼を受けミズノレーシングスーツを開発。
- ◇1992 レーシングスーツブランド「FORZA」と技術提携。
- ◇1993 WGP参戦の原田哲也選手を筆頭にFORZA契約ライダーに供給、積極的に開発を進める。同時に韓国工場の生産管理も担当。この年から「肩を滑らせる」という発想の元にショルダースライダーの前身、リベットパッドの開発に着手。
- ◇1994 リベットパッド標準装備のレーシングスーツが多くの支持を受けヒット商品に。
- ◇1994~1998 HONDA/YAMAHA/SUZUKIメーカー系ライダーをはじめとする全日本トップライダーやWGP選手にレーシングスーツを供給。
- ◇2000-2001 イタリア「SPIDI」のアドバイザー及び全日本契約ライダーサポートを手がける。
- ◇2002-2007 FORZA再スタートのための企画に関わり、デザイン企画・生産管理等全般を担当。
- ◇2007 Hit Air(無限電光)からネックエアバッグシステム供給契約を結び、ネックエアバッグを内蔵したレーシングスーツの開発に着手。
- ◇2008-2009 FORZAの廃業に伴いプライベートブランド「プライドワン」を主軸にシフト。「海外工場で90%生産→日本仕上げ」の生産体制を整備、これまでのOEM生産等で得たノウハウを活かし新たな取り組みを開始。
- ◇2010 新生PRIDE1 スタート：PRR-105(ロード)/PRM-103(モトド専用)のレーシングスーツをリリース。全モデルにショルダースライダー標準装備。
- ◇2011 ツーリング仕様のネックエアバッグスーツPRA-116-Kid'sスーツPRK-117をリリース。
- ◇2012 ネックエアバッグ内蔵レーシングスーツとしては業界初となる全日本選手権ライダーに供給。ハードチェストガード標準装備に。
- ◇2015 JSB藤田拓哉選手(YAMALUBEヤマハ)にレーシングスーツ供給。

## ネックエアバッグ内蔵レーシングスーツ生産歴10年以上 Hit Air製ネックエアバッグ・システムのシェアNo.1!

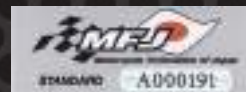


### 過去の主要なレーシングスーツ供給ライダー

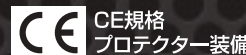
ピーター・ゴダード選手(1991 GP500全日本チャンピオン)  
 原田哲也選手(1993WGPチャンピオン)  
 宮坂賢選手(1994 GP125全日本チャンピオン) 本間利彦選手(GP500)  
 岩橋 健一郎選手(GP500) 鶴田竜二選手(GP500)  
 大崎誠之選手(GP-125 GP-250 JSB) 芳賀健輔選手(GP250)  
 堀 良成選手(GP250) 鈴木 淳選手(GP250) 小倉直人選手(GP250)  
 青木治親選手(WGP250) 徳留真紀選手(WGP250) 清水隆男選手(WGP125)  
 仲城英幸選手(WGP125) 匹田清智選手(WGP250) 宮崎 敦選手(WGP250)  
 岩城晃一氏(HD) 生見友希雄選手(JSB) 松本康選手(MOTO1Pro)  
 熱田高輝選手(MOTO1Pro) トニー・シュルツ選手(MOTO1Pro)

# PRR-175 Neck air bag Racing suit

## <ネックエアバッグ・システム>内蔵の ベーシック・レーシングスーツ登場!



FMF J2017 7公認



CE規格  
プロテクター装備



## レーシングフィールドからダイレクトフィードバック!!

プライドワンは、Hit Air製ネックエアバッグシステムを装備したレーシングスーツを全日本選手権に供給し、開発を続けている唯一のメーカーです。



Hit Airは、着用するエアバッグ・システムにおいて  
世界シェア<No.1>を誇るメーカーです。

# PRIDE-ONE

<http://pride1.jp>

〒270-1432 千葉県白井市富士57-11  
TEL:047-445-8366 / 090-3335-6222 FAX:047-401-0049





# PRR-175

従来のフラッグシップモデル<PRR-145>に豊富な実戦データを注ぎ込んで進化させた、最新のレーシングスーツ。業界初のネックエアバッグ・システムを内蔵した“既製サイズ”モデルです。

サイズ：M・MW・L・LW・LL・LLW

価格：24万5,000円（税別）

※サイズ・カラーオーダーは別途承ります。



**専用設計のハンブ内にネックエアバッグユニットを内蔵**  
ネックエアバッグ・ユニットを内蔵するため専用開発したハンブ（背面のコブ）を標準装備。

## 立体一体型パターン採用

【肩口・膝周り・股間外側】関節部分の縫い合わせを極力無くし、ライダーの動きをさまたげにくい構造にしている。

## ケブラーニット採用

【脇・袖・股～フクラハギ一体型】関節部の運動性能をさまたげずに、高い強度と安全性を確保。

## テンパーフォーム／CE規格プロテクター採用

ヨーロッパではスタンダードのプロテクションシステムを採用。  
・鎖骨・腰・尾てい骨はテンパーフォーム  
・エルボープロテクターはCE規格  
・ニーパッドは成型PVCカブ

## ネックエアバッグ標準装備

ネックエアバッグシステムのトップメーカー<HitAir>とコラボレーション。転倒時、瞬間的に作動し頸部を守るネックエアバッグを標準装備している。



■オレンジ

## カンガルー皮革と牛皮革(シュリンク)のハイブリッド

転倒時に路面に接触する確率が低い「前身頃」「内モモ」「袖内側」などに軽量で動きやすいカンガルー皮革を採用。そのほかの部分は牛皮革として耐久性を確保。（カンガルー皮革は、運動性・軽量化を追求するMotoGPライダーなどが採用している素材）

## ハードチェストガード標準装備 POI

多くのレースで装着が義務付けられているチェストガードを標準装備。また後付けチェストガード用のマジックテープも付属する。

## アルミショルダー／エルボースライダー標準装備

長年レーシングスーツを製造・開発してきた経験から、転倒時の体へのダメージを減らすには<Slipping is Safer＝路面を滑ることで安全を確保する>という考えにたどり着く。そのため、路面に接触しやすい肩やヒジに滑るために最適なメタル(アルミ)スライダーを標準装備。体へのダメージを軽減すると同時に、レーシングスーツ自体の損傷も抑える仕様とした。

## <カラーバリエーション>

## パンチングメッシュ／サイドエアベント標準装備

積極的に空気を取り入れ、排出にも考慮したベンチレーションシステムを装備。夏の耐久レースなどで威力を発揮する。

## 着脱式3Dインナー採用

裏地のインナーは背面を3D化し空気の流れ道を確保。また外して洗えるので、清潔さを保つことができる。リペア時のコスト低減にも貢献する。

## ケブラー糸(ステッチ)採用

耐摩耗性に優れ、高い引っ張り強度を持つケブラー糸を各所ステッチ部に採用(シャーリング部を除く)



■ブルー



■レッド



※写真はイメージです。



©Shigeto Kawakami



※今後の開発などにより、予告なく仕様変更する場合があります。